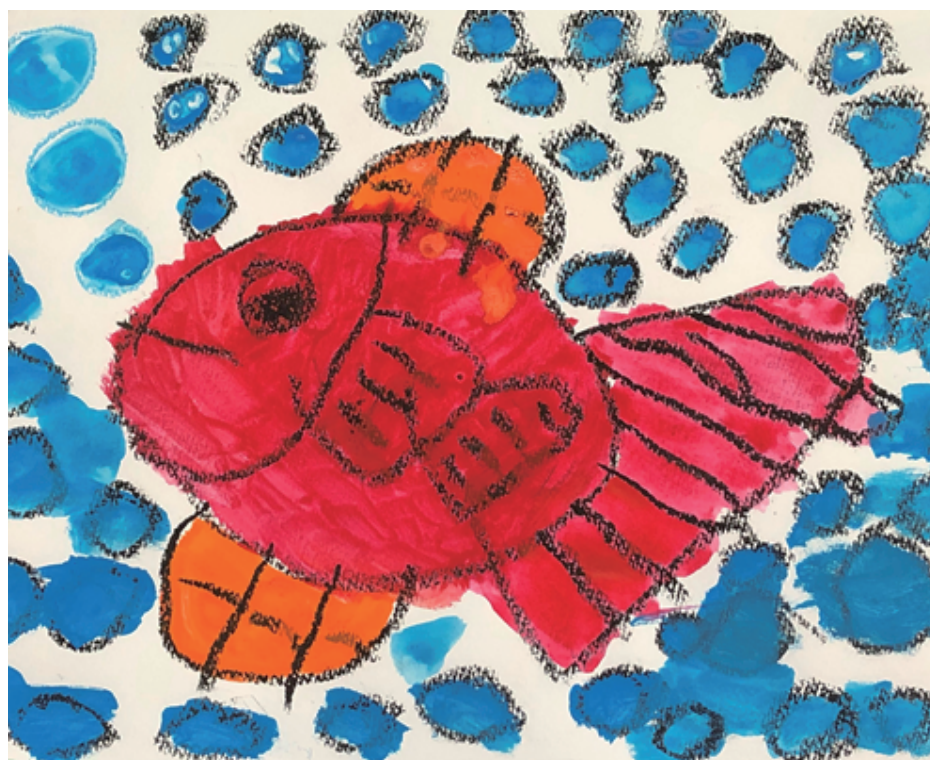




兵頭千絵さんの作品

私の母は

私の母は、私が3才の時に結核で亡くなり、その後父が再婚し継母（後、母と記す）に育てられた。幼い頃から隣に住んでいた祖父母（亡くなった母の）に甘やかされて育った私は、元教員だった厳しい母が怖かった。父は幼い私を一人にできないと思い、「私のために」再婚したようだが、それは余計なお世話だった。父が再婚しても隣には祖父母が住んでいて、私は毎日外で遊んで家に帰るときに、どっちの家に帰ろうか迷い、しばらく玄関の前に立ちすくんでいたものだった。しかし帰る家は祖父母の家ではないことは幼いながらわかっていたので意を決して家に帰った。

母は何でもできる有能な人で、当時の女性としては自立した女性だった。しかし私にとっては、私の気持ちや意思とは無関係にこうあるべきを強いる窮屈で怖い人だった。小学校2年生か？算数の宿題で100-1の引き算ができない私は、母の前で固まったことがある。母が説明して教えようとすればするほど、わからなくなる。母は苛立ちはじめ、怒りだす。なおのこと頭に入ってこない。

1時間もじっと固まっていた気がする。結局どうしたのかは覚えていない。

「自由」に憧れた。自分のやりたいようにやれる大人に早くなりたい！家を出たい！と願いつづけた。そうやって今に至る。母は、祖父母に甘やかされて育った私を疎ましく思っていたのだろう。わがままと自由の違いも知り、自由に生きるのは簡単ではないことが身に染みている今の私には、母が、私の言動に難癖をつけずにはいられなかったことも、わからなくはない。母は自分を好いてくれる子に育てるより、しっかりした人間に育てるのが使命だと思い、役割を果たそうとしたのかもしれない。学校の先生のように。しかし、私が欲しかったのは先生ではない。辛い時や悲しい時に本音が言える母親だった。すでに亡くなった母には申し訳ないが、残念ながら母のことは最期まで心から好きにはなれなかった。きっと母も不自由だったのではないか。最も自由が欲しかったのは、実は母だったかもしれない。（理事長 遠藤良子）

相談支援エプシロン

Tel 042-505-7021 Fax 042-505-7669

エプシロンの真の仕事

一人暮らしのAさんから電話がかかってきた。21時過ぎ。かなり切迫した口調。「あのね、虫がいるの!」。寝ようとしたら視界に入ったらしい。虫に関しては、わたしは殺生をしない主義で、「あ、いるんだね」と過ぎゆくのを見守るか、種類によっては「さようなら」と外に連れ出す(唯一の例外は蚊)。その感覚を思い出しながら、のんびり明るめの声で、「その虫はね、なんにも悪いことしないんだよ。痛くもしない。かゆくもしないの」と言ってみた。するとなんと、「悪いこと、しないんだあ」と実に素直な返事。感動しながら、「だからね、そのまあいっものように寝て大丈夫だよ」と続けたら、「わかった。失礼します」とすぐに明るく電話が切れたので、更に感動。翌日はその感動を皆に分けながら、朝のヘルパー事業所、日中活動の事業所、夕方のヘルパー事業所に連絡をとり、皆で連携して、その日の内に、Aさん宅に虫対策のグッズを置きました。

さて、その10日後ぐらいに、やはり一人暮らしのBさんから日曜日の夕方電話がかかってきた。かなり切迫した口調。「虫がいるんです!」。Aさんとのやりとりを思い出しながら、「その虫はね、なんにも悪いことしないんだよ」と言ってみた。「わかっていますが、眠れません」。同じにはならなかった。

「殺虫剤はあるのですが、どうやって使うのか、わかりません」「どうしたらいいですか」「白川さんの言っていることが、わかりません」。諸々考えて、訪問することに。そのとき、わたしは出先からの帰宅途中で徒歩だったので、目の前のドラッグストアで虫対策のグッズを購入したのち、いったん家に寄り、私物を置いて自転車を取って出発。

夕風に吹かれ、大学通りの自転車レーンを走りながら、次第にしみじみしてしまった。エプシロンは常日頃、サービス等利用計画とモニタリング報告書の作成に追われている。さもなければ事業所探しの電話かけ、支援会議の調整、面談のアポ取り、関係事業所や利用者・ご家族の様々な困りごとへの対応をしているのだけれど、解決が見えないようなことも多い。けれど、虫のことを何とかするぐらいなら、わたしにもできる。雑多な書類仕事も、いまみたいなときのためにあるのなら、それもいいかも。わたしは本当のところ、こういうことのためにいるのではないか。エプシロンの真の仕事って、こういうことだと感じる…。

オチとしては、ちょうど滞在している間に再度虫が現れたので、ふだんの主義はさておいて殺虫剤を使用して虫の動きがほぼ止まるまで見たのですが、目を離してティッシュを用意している間に、その虫が再びどこかに行ってしまったということ。Bさんはわたしが帰ったあとも2時間くらい、再度現れないか見張っていたらしいです。でも眠れたようだし、よかった。次回は、目を離さないようにしよう。(白川)

誰もが集えるみんなの居場所(10:30~18:30日祝休み)
日中一時支援事業(15:30~土日祝休み)

たまりば宙 (そら) Tel/Fax 042-843-0443

来て! 見て! 買って!

たまりば「宙」の宣伝をします。「宙」は2009年4月にオープンしました。その時のことを知る職員はいませんが、当初から来て下さっているお客様は大勢いらっしゃいます。ご存じの通り「どなたでもどうぞ!」の地域コミュニティを目指す事を当初から引き継いでいます。この度、長かった緊急事態宣言が解除され、やっと10月1日より、12時からの開所を再開しました。待っていて下さる方は多いと思いますが、1年半、お休みしたり、開所したりしているし、開所時間も短いので、なかなかお出で頂けないようです。



スタッフの手作りおやつ
かぼちゃのシフォンケーキ

4年前から日中一時支援事業(作業所通所後の夕方からの活動場所)を併設し、当初は日中一時の利用者さんと、「たまりば」を利用して下さる方

との交流も少しはあったんですが、今はその時間帯の「たまりば」は、お休みさせて頂いています。

「谷保駅前の100円ショップ」と言われたこともある「宙」ですが、ご提供いただいた品物を安価でリサイクル販売させて頂き、寄付して下さった方、買って下さった方、両方から喜ばれ、見えないけれど輪が広がっていると思います。衣類と本の動きがいいですね。食器を片づけたい方は多いものの、購入は我慢!の方が多く、食器は減りません。

作業所のクッキー、野菜、熊本の五穀米、手作り品も置かせて頂いています。どうぞ一度のぞいてみて下さい! 早く一昨年までのように、10時半~6時半までお出で頂けるようになって欲しいです。(松永)

月一度の絵本のじかん(日中一時)



当面のたまりば開所時間

平日 12時~15時(以降 日中一時支援事業)
土曜 12時~17時

放課後等デイサービス

くじらっこ

Tel/Fax 042-505-4661

My favorite things

コロナ禍の中過ごす2度目の夏となりましたが、くじらっこは子ども達の元気な声と笑顔溢れる楽しい夏休みとなりました！しんどいことがあっても子ども達と一緒にいるとそんな負の感情はどこえらや。慌ただしさや大変ささえも、やりがいそして楽しさに変えてくれる。そんな力・魅力が子ども達にはあります◎

魅力…といえば。私は、かき氷専門店のかき氷に魅了されています！コロナになり、思うように食べに行くことはできていませんが、自分の心をリセットし、心もお腹も満たしてくれる、とても魅力的な食べ物です！かき氷に1,000円超え!!!と驚かれることも多いですが（笑）。たかがかき氷、されどかき氷。お気に入りのかき氷の写真をのせますので、興味のある方は、ぜひコロナが落ち着きましたら、かき氷専門店で足を運んでみてください♪（宮崎）



居宅介護等事業・訪問介護事業 **くじらハウス**
短期入所 **おにぎり**

Tel 042-505-7034

Fax 042-505-7035

もう一度行きたい場所

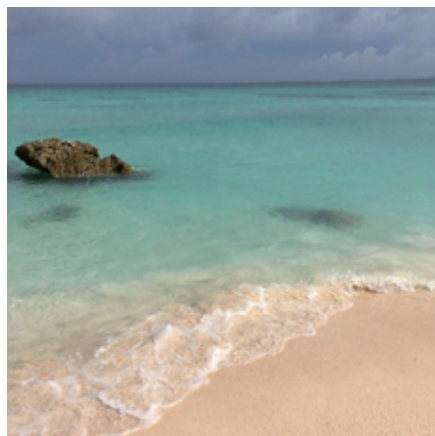
コロナ禍となり、私自身は旅行や帰省を控えて生活を続けてきましたが、時折、旅行に出かけた時の写真などを眺めながら、またのんびりと旅に出られる日を楽しみに生活しています。



することで、リフレッシュできていました。これからも、まだまだ通常というにはほど遠い日々が続くのかもしれません、工夫してリフレッシュしながら、少しでも誰かをちゃんと支えられるよう、自分の心をいつも健全にして過ごしていきたいと思います。



野母崎（のもさき長崎）



宮古島（沖縄）

もう一度行きたい場所 Best3

- ①野母崎（長崎）
- ②宮古島（沖縄）
- ③諏訪（長野）。

美しい空や海や、神聖な木々、癒しの生き物、おいしい食べ物、温泉等々…。心が洗われるような体験を

これまで、くじらハウスでは利用者の皆さまに外出支援に対する規制等で度々ご協力をお願いしてきました。ご了承をいただきながら、どうにか今日まで運営を続けてくることができましたこと、心から感謝申し上げます。思うように、行きたいところに行けなくなってしまう、皆さんのストレスたるや、計り知れないものだと思います。できるだけ早く、「いつも通り」が戻ってきて、一緒に楽しくお出かけできるようになり、元気な笑顔が見られるよう、粛々と祈り続けたいと思います。（永井）

ミラハウス 考え続ける気持ち

たしか前回、かいゆうだよりに原稿を書いた時も同じ話題でした。その時も、「いつまで続くんだ？」といったことを書いたんですが、今回



もまったく同じことを言わざるを得ない状況です。そうです、コロナです。去年春に、コロナ禍と言われるご時世が始まった時は、こんなに長々と続くとは想像もしていませんでした。本当に嫌になってしまいます。特に、我がかいゆうのグループホームに



とって、移動の制限は、かなりの死活問題です。かいゆうのグループホームは、ずっと「余暇活動の充実」をひとつの売りにしてきていました。この1年半、言ってみれば、ずっと得意技、ストロングポイントを封じたまま運営していることになります。「みんなで〇〇行きたいのに～」「〇〇さんは△△行ったら喜ぶだろうになぁ～」なんて思いを胸に秘めながら、日々“感染予防を第一”に勤しんでいます。そんな中でも「何ならできるだろう？」「グループホームの中で出来ることは何だろう？」を考え続ける気持ちだけは決して萎えさせてはいけないうえ、と自分たちに言い聞かせている今日この頃です。(中村)



来歩ハウス 違う道へ

はじめまして。6月から来歩ハウスに入職しました津村裕司です。私は約30年、製造業で働いていましたが、製造業は景気に左右される傾向があり、他に違う道がないのか模索していた時に、かいゆうの求人募集に惹かれて入職しました。実際に働いてみると、利用者さんへの接し方、グループホー



ムの仕事に戸惑い、困惑の連続でしたが、日々の流れの中で利用者さん個人と接する機会が多くなり、徐々に個性、特徴を掴めるようになりました。今後は少しずつ距離を縮め、信頼関係を築いていければと思います。私自身至らぬ点が多く、ご迷惑をおかけしますが、経験を積んで信頼のおける支援員になりたいと思いますので、今後ともよろしくお願い致します。(津村)

メゾン・ド・歩人 戦友のこと

ずーっと心配していた仕事仲間に先日会うことが出来た。かいゆうになってからの付き合いなので、10年にも満たないけれど、彼女のチャレンジ精神、方向性、自分以外の人間を応援する努力に尊敬すら感じていた。そんな彼女が仕事から離れた。離れざるを得ない状況に追い込まれた。というべきだろうか…。お酒もしこたま飲んだ。愚痴も言い合った。言ってみれば戦友である。そんな彼女が仕事から離れた。離れた方が良くとも古狸も言っていた。私もそう思う。何も言わずに見守った。何年かが過ぎた。ちょうどコロナ禍だった。

どんな顔して会ったらいいかななんて、思っていたけど、我々が中西さんが会う約束を取り付けてくれた。待ち合わせ場所へ向かう…。やっぱり変わらないじゃん。「陽子ちゃん久しぶり」。直ぐに言葉が出た。会いたかったの。私が。と、思った。ランチで歓談。面白かった。彼女のセカンドステージ。応援したい。リハビリじゃなくて本気だった(笑)。



こだわりの作品たち。もっとこだわって作りたいもの。見たい！

人にはいろんなペースがあって、ある意味、人生のブイを立てて進めるのが手っ取り早い。彼女には、そのブイがあった。そうだなあ、私のブイはどこに立てようかな。そんなことを考えてしまった。人として進むブイ。大海原でもブイは立てられる。自分の人生だから好きに立てられる。そんな彼女が作ったヘルプバッチ。確かにヘルプカードは、いかにもな感じで付けたくない本人、家族も多い。納得。形にしよう。と思ったり思わなかったり。そんな彼女の人生を見せてもらって時に協力したり、応援したり、楽しみが増えたなあ。

鍋島陽子さんは9月末をもちまして、かいゆうを退職しました。くじらっこ発足から今のくじらっこになるまでを支え、大きな実績を残しました。彼女は「やりきった」と。この職種に就いて25年あまり経っていたそうです。50歳で辞めると前々から決めていたけど、少しオーバーしてしまったとか。今度は自分のための人生を謳歌してください。本音はもっと一緒に仕事したかったけど、諦めるかな。(小野)

はじめの一步ハウス

怪談一人の想いがそこにはある

先日の法人全体研修は、お疲れ様でした。その研修の中で、“自分がハマってる事を相手に伝える”というワークがありました。その時に、自分の趣味の中で、どれがいいか悩んだ末に、お話したのが『怪談』でした。怪談、怪異譚…。おどろおどろしくて、怖いのが苦手な人は、何の興味もそそられないと思いますが、ひとつ、お付き合いくださいまし。

「四谷怪談」、「牡丹灯籠」、「番町皿屋敷」などの怪談は、講談や落語の席で語られた話でした。つまり、元をただせば立派な【話芸】なのです。「真景累ヶ淵」という話などは、全97章数世代に渡る話で、全てを語ると6時間近くかかる超大作です。現代は、「実話怪談」というのが主流になっていて、普通の人が体験したとされる話をドヤ顔で話す、怪談師と呼ばれる職業まで生まれています。講談師や落語家といった話芸の専門職以外で、現代の怪談師の礎となった存在であり、私が怪談を好きになったキッカケは稲川淳二氏です。もともとは工業デザイナーで、舞台芸術を手伝っているうちに、そのキャラクターや人柄が、裏方の制作スタッフに気に入られ、表舞台に出される様になり、80年代は、バラエティーやワイドショーのリポーターや、リアクション芸人として活躍され、そうやって全国を飛び回っている中で体験したり、見聞きした怖い話をテレビで話していく

うちに、稲川淳二＝怖い話をする人として定着。1993年から怪談を話す全国ツアーを始められ、今年で29年目。そんな稲川さんのことを、ファンは座長と呼んでいます。

座長の怪談は、よく“映像が浮かぶ”と言われ、情景・状況描写と表現が、とても豊かです。「怪談ってねえ、ただ怖いだけじゃないんですよ。」人の想いがそこにはあるんです。愛情、憎しみ、妬み、慈しみ、そんな想いを理解して初めて、“怖い”ってなるんですよ」と言っているとおり、怖いだけでなく、泣ける話も多いのも座長の怪談ならではのものです。いろいろな物事に造詣が深く、民話や伝承といった土着の話まで掘り下げていかれるので、自然とそういったことを知るために、柳田國男や小泉八雲などの本を読んだり…。民間伝承、民俗学といったことにも興味を持てたのも座長の怪談のおかげです。

家族の介護などがあり、なかなか遠出したり出来ない中、怪談や、それを通した世界を、本や動画サイトで調べることが息抜きになっているという、変なお話でした。座長は、亡くなられたご次男が、クルーゾン氏症候群という重度の障害をお持ちだったため、障害関係の講演もされており、ファンクラブの催しで、お会いした際に、「アタシみたいな仕事は無くても世の中まわるけど、あなたの仕事は絶対必要なんです。よろしくお願いしますね」と、頭を下げられました。そんな座長が語る“人の想い”が通った怪談。機会がありましたら聞いてみてはいかがでしょうか。うか…。(坂口)

とれいる

疲れたまった人、 注目！

私事の話になりますが、生まれてこの方、大きな怪我や病気、インフルエンザにかかったこともなく、抵抗力はある方かと。私たちの仕事柄、昨今のウイルスをはじめ、様々な病原菌などと接触する機会が多いと思います。そんな中、私が最近飲み始めているものがあります。シークワサーの濃縮ジュースです。ジュースといっても、シークワサーのみなので、とても酸っぱい



です！ちなみに、沖縄の方言で「シー」は酢、「クワサー」は食わずで、酢を食わせるという意味だそうです。これを水で割ったり、お酒と一緒に飲んだりしています。値段は少し張りますが、これで医者いらずなら、安い物だと習慣的に飲んでいきます。もし疲れが溜まっている方は是非お試しを。※決して商品の宣伝ではないので、あしからず、ご了承下さい。(佐々木)

すうえる

垢抜けました！

久々に、何を書こうか悩んでいたら私が、かいゆうに入ってから何年経つのだろう？と、ふと思いました。かいゆうとの出会いは、当時、通っていたYMCAの学生だった頃に、くじらハウスでのアルバイトを知り、始めたのがきっかけです。

あの頃は、楽しくお出かけをする、一緒に楽しむことを考えていました。そこから1年経つ頃、気づけば、かいゆうの魅力に吸い込まれ、職員になって

いました。職員になって、くじらハウスで1年。すうえるで、もうすぐ6年経とうとしています。アルバイトを含めると8年も、かいゆうと関わっているんですね。8年で、いろいろな利用者さん、スタッフと関わってきましたが、皆さん、それぞれに良さがあって、とてもいい法人だなと、ふと思いました。かいゆうと出会って、私は、だいぶ垢抜けました(笑)。今後は、もっと変わっていくのかな？これからの未来は、どうなっていくのか、わかりませんが、私は、かいゆうと出会えてよかったと思います！本当にありがとうございます！(松原)

* 今日一品

ヨーグルトケーキ

腸活レシピ
No.2

スイーツ編

酸味のあるケーキが好きな方は絶対ハマります。もう少し甘味が欲しい方は、フルーツの缶詰をあんこに混ぜたりトッピングしてみてください！

材料

- ・ヨーグルト 2パック
- ・タルト台 1コ
- ・あんこ(こし餡でもつぶ餡でもどちらでも) 250グラム

作り方

- ①ヨーグルトをザルにあけます。
コーヒーフィルターを使っても OK。
- ②下にボールを重ねてホエイも取って下さい。
約束 8 時間ほどそのままにし、水分を切ります。
- ③タルト台にあんこを牛乳で少し伸ばして敷きます。
その上に固くなったヨーグルトを敷きます。
- ④冷蔵庫でタルト生地が少し柔らかくなるまで寝かせれば完成です！

※取れたホエイは酸味があります。
トマトスープ、トマトソースなど、
トマトと相性がいいです。

レシピ提供 青山実 (歩人アルバイト職員)



かんたん！
美味しいスイーツ

献立メモ

おやつは心の栄養

適度なおやつは楽しみでもあり、気分転換になるのはもちろん、夕食の食べ過ぎを防止できる効果もあります。ただし、食べ過ぎは禁物。適量としては 1 日 200 kCal 以内が目安になります。例えばクッキーや、おせんべいなら 3～4 枚、ポテトチップス 1/3 袋、ケーキなら 1/2 個、プリン 1 個くらいです。

おやつは、ほとんど糖質でできているので、後の食事では糖質を早くエネルギーに変えるビタミン B1 を積極的に摂りましょう。
(栄養士 佐藤公子)

生活介護事業所

くじら工房

Tel/Fax 042-843-3450

支援見つめ直す

一介護体験実習の 受け入れきっかけ



昨年度はコロナ禍で、全ての介護体験実習の受け入れを断念しましたが、今年度については既に 6 月、そして 11 月、12 月に YMCA 医療福祉専門学校 の 1 年生

の介護体験実習の受け入れをします。

6 月の実習では、介護実習の手引きを基に、実習を受けてもらいました。学校での感染対策についても話を伺い、参考にさせて頂いています。

また、2014 年度か



ら福祉施設実習の受け入れを行っている近隣の高校生の生徒さん 2 名についても、学校と何度も話し合いを重ねて感染対策を講じ、9 月中旬から 13 日間の実習をしました。生徒さん達は、すぐに溶け込んで、利用者さんの芸術性や農作業、一人一人に合ったコミュニケーションの取り方にも関心を持って接してくれました。最終日は、生徒さん達で、みんなが参加できるように工夫して作った双六ゲームと音楽の発表がありました。利用者さんは、今まで会ったことのない実習生さんと一緒に過ごすことになり、戸惑う時もありましたが、スタッフには見せない表情を見せてくれました。スタッフにとっても新しい発見が多く、日々の支援のあり方を見つめ直すきっかけとなりました。



来年度はまた、実習生さんにも安心して 1 日外出に同行してもらえるようになると思います。
(三浦)



実習生作の双六ゲーム

初 の オン ライ ン 開 催 頑 張 り ま し た ！ ス タ ッ フ 全 体 研 修 報 告

講師紹介

小倉 玄 (おくら げん)



【プロフィール】

東京大学工学部卒業、医療機器メーカーにて医療機器の開発に携わる。1994年東京大学工学部卒業後、医療機器メーカーにて医療機器の開発に携わる。開発・研究の経験を活かして株式会社エス・エス・エスに入社。その後、エス・エス・エスにて営業として、企業に提供している医療・福祉の分野で活躍。その後、エス・エス・エスにて営業として、企業に提供している医療・福祉の分野で活躍。その後、エス・エス・エスにて営業として、企業に提供している医療・福祉の分野で活躍。

9/26

今年の全体研修は、かいゆう初のリモート（完全オンライン）となりました。参加する前からスタッフの間に不安が広がりました。世の中、急速にデジタル化が進んでいる。かいゆうは、まだまだその波に乗り遅れず（頑張っておりますが…）、スタッフの中でもPCの操作に四苦八苦している現状もあります。そんな中、突然の完全オンラインでの開催がメールにてお知らせされました。それもZoom（デジタルアプリ）をインストールし、そこから会議ルームへアクセスして講義を聞いたり、グループに分かれてグループワークをしたり、経験がない方は想像もつかない別世界だと思えます。それでも完全オンラインはやる！と決めて、あっという間に当日が来ました。

自宅にWi-Fi環境の無い人のために用意された会場には、講師の方と、その会社のスタッフの方が、お手伝いに来て下さっており、接続などはスムーズに執り行われ、スタッフが参加してくるのを待つばかりになっていました

今年の講義の内容は「ハラスメント」。私たちの仕事は信頼関係で成り立っていると思います。この信頼がない場合は、全てがハラスメントの問題に直面してしまうと感じます。そんな重い講義内容でしたが、お話も楽しく、着々と時間は過ぎていきます。画面に映る講師の方と、いってみればマンツーマンなのですが、聞いているだけだとやはり来てしまう睡魔…。

後半はグループワーク。参加方法もクリックのみでグループに分かれる仕組み。3人ないし2人のグループワークも、いつもだったら、がやがやしている中なので、内容的にも人の話を聴くというワークは難しいと思いますが、リモートならではのワークだったと思います。PC環境でカメラが無く、顔が映らない相手とも、なんとなく集中して話が出来た。不思議な経験でした。終わった後も良かったなという印象しかなく、こういった研修もいいかなと思

いました。コロナ禍だったからこそこのオンラインという発想でしたが、研修内容、会議内容によりますが、リモートも悪くないと思いました。逆に空気を感じて作り上



会場参加した筆者

げていく会議には、リモートは向いていないと思います。研修の目的如何では、リモートも大いに取り入れていければ良いと思いました。



担当者質問

研修担当の池田さんに、いくつか質問をしてみました。

Q. 今回、オンラインになるにあたり、研修内容、グループワークの内容を変更したのでしょうか？

オンラインになったことでの大きな内容の変更はなく、グループ単位の人数を変更した程度です。スマートフォン参加の方を想定すると、表示される画面を基に、1グループあたりの人数を減らしました。

Q. オンラインになったことによって研修内容に変更などあったら教えて下さい。

内容の部分は、大きな変更はしていません。サポート体制のところで、サポートスタッフを2名追加して頂くなど、講師所属企業のご厚意で、無事実施することができたことは本当に感謝です。また、かいゆうスタッフにもサポーターとして、会場設営や、会場参加者のサポート、オンライン上の出欠など、研修運営に協力して頂きました。会場の使用についても、毎年YMCA医療福祉専門学校の協力を頂いています。

Q. その他、反省点などは？

難しかったのは、情報の周知です。設定が難しい方などは、知らせてほしいと何度もご案内したつもりでしたが、アンケートの結果、接続のテストをしてほしかった、設定をサポートしてほしかったなどの声が多く、上手く伝えきれていなかったことは本当に申し訳なかったです。また、今後もオンライン開催希望がとても多く、次年度以降の開催方法が悩ましいな…と思う研修担当でした。

最後に…

急なこととはいえ、いろいろと根回しをして下さった池田さん、講師の小倉さん、協力して下さった（株）スタートラインのスタッフの方々、そして参加者の皆さん。今回の研修が成功したのは皆さんのおかげだなあとしみじみ感じます。本当にお疲れ様でした。（小野）

